

文学・詩歌ご担当者様 新刊の人気の詩集 7月23日発売



鎌倉の出版社

港の人

ご注文は JRC へ

FAX 03-3294-2177

シンラ第一章

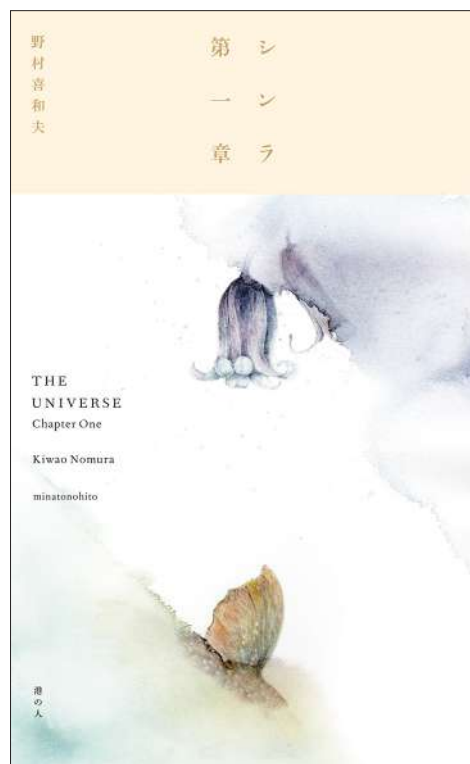
のむらきわお
野村喜和夫

ISBN978-4-89629-476-7 C0092 A5 判変型フランス装／本文 424 頁／定価 3520 円税込

日本現代詩の前代未聞の快拳！

大岡信賞詩人の大傑作、ソネット詩100篇の詩集が誕生する！

シンラとは何か、森羅万象のシンラであり、この宇宙の、天と地の、生と死の、普遍と個の、愛と哀しみの、ソネット詩が100篇、詩集のページとページの小宇宙に浮かんでいる。



装画：大脇勇人 ブックデザイン：三橋光太郎

野村喜和夫（のむらきわお）

詩人。1951年埼玉県生まれ。早稲田大学文学部卒。戦後生まれ世代を代表する詩人のひとりとして現代詩の先端を走りつづける。著訳書多数。主な詩集に『美しい人生』（大岡信賞）『パッサル、パッサル』『地面の底のわれわれの顔一わが近未来近代』他、評論に『現代詩作マニュアル』『移動と律動と眩量と』『萩原朔太郎』（鮎川信夫賞）『哲学の骨、詩の肉』『萩原 VS 西脇一二十世紀日本語詩の可能性』など。

第100番（そしてぼくはきみを抱いて……）

そしてぼくはきみを抱いて ひと夏が締めくくられた
恵みの夜の郊外から また始まる都市の日常へと
車で帰路を急いでいたら 丘の向こうで
花火の打ち上がるのがみえた

もしきみが助手席にいたら 歓声をあげただろう
ぼくはハンドルをにぎっていたので 愛する大地
愛する大地 そこから届けられる火の花束を
視野の片隅に認めていただけ

でも十分だった 今年の花火の向こうに
去年の花火がみえ そのまた向こうに
おとしの花火がみえていた

のちがいがなく 空の奥で
いくつもの夏の終わりが連なって
夜の喉のようにすばまり それが永遠

*すべての取次からご注文は可能です（JRC 経由）。返品条件付き注文扱い

番線印 ご担当：	ご注文数 様	<div style="text-align: center;"> <h2>シンラ第一章 野村喜和夫</h2> <p>ISBN978-4-89629-476-7 定価 3520 円税込</p> </div>
---------------------	-------------------	---